

全国学力・学習状況調査

稲築西小学校

1.調査目的等

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

国語A(95)国語B(99)算数A(97)算数B(96)を上回る。

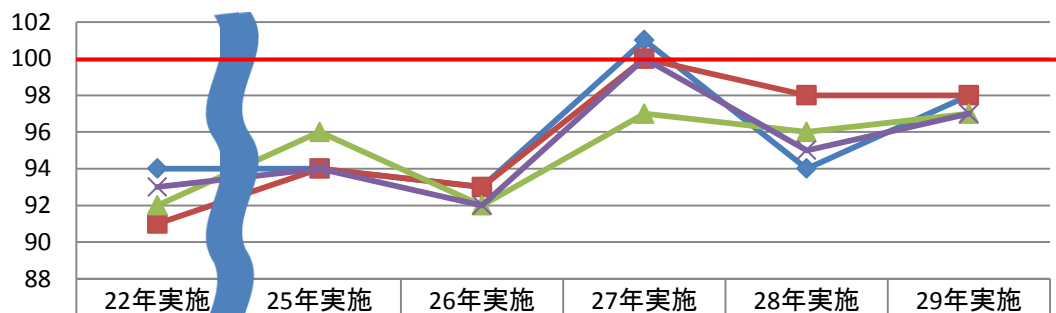
3.指標に向けての取組

- 家庭学習の中に、関連する内容を計画的に取り入れていく。
- 授業の中で、自分の考えを伝える(話す・書く)時間を確保する。
- 朝の活動の時間に、過去問などに取り組む。

4.調査結果(全国の平均正答数を100とした標準化得点)

	国語A	国語B	算数A	算数B
本校	98	98	97	97
嘉麻市	98	98	99	98
全国	100	100	100	100

推移



◆ 国語A	94	94	93	101	94	98
■ 国語B	91	94	93	100	98	98
▲ 算数A	92	96	92	97	96	97
✕ 算数B	93	94	92	100	95	97

5.各学校における分析

- 緩やかであるが、学力は上昇傾向にある。
- 正答数分布グラフからは、学力の2極化は見られず、正規分布に近い。ただし、成績下位層がやや多い傾向にある。
- 国語に関して、「書く」領域に課題がある。
- 算数に関して、「量と測定」「数量関係」に課題がある。

6.各学校における今後の取組

- 日々の授業改善に努める。自分の考えを「書く」時間を確保していく。お互いに考えを交流し合う活動を仕組むことで相手意識をもって「書く」活動に取り組むことができるようにする。
- 6年間を見通した系統性のある家庭学習の在り方を検討していく中で、課題克服に向けた課題を低学年のころから計画的に取り入れていく。
- 学力との相関関係にある基本的な生活習慣を整えるために家庭への協力を呼びかける。どのような視点で整えていけばよいのかを具体的に質問紙の結果からお知らせしていくようにする。
- $(10 \times \text{学年} + 10)$ 分の家庭学習時間を8割以上の児童が確保できるように、また、9割以上の児童が宿題を確実に提出するように指導する。
- 週末課題に取り組ませ、高学年では平日の2倍の量をこなせるようにする。また、3年生からは、理科や社会にも取り組ませ、自己選択できる課題を提示する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◆ 嘉麻市学力向上推進プランに設定した「書く活動」を核とした授業づくりを推進する。そのために、校内研修における授業参観指導を実施する。また、学力向上推進員による講師及び若年層の教員を対象とした授業改善指導を継続的に実施する。
- ◆ 基礎基本の徹底を図るための環境を整備する。そのために、基礎基本の徹底に向け、形成的評価を強化する。また、評価後の習熟度別指導を充実させるよう指導する。
- ◆ 嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個の学習課題に応じた週末課題の個別化を推進する。

